

## これまでのご支援に感謝いたします。

市原悟子

私は 25 歳からアトムと関わり保育士、所長代理、アトム共同保育園園長+理事長、つばさ共同保育園園長の役を終えて 2013 年 60 歳で卒園する予定でした。しかしこれまだ任務は残っている卒園はさせられないと言われ理事長職で 10 年やっと 6 月に卒園することとなりました。

45 年間の楽しいアトム生活でした。

6 月 23 日法人 20 周年（実際は 21 年ですが）記念行事が催され会場ロビーには多くの豪華な花が届けられていて、町長、役場職員、議員、町内福祉関係、町外【和歌山、埼玉、横浜、東京】アトム卒園家族約 350 人の参加者でお祝いすることができました。（前日には島根からも）

驚くと共に有難さに胸が熱くなりました。

これからを作っていくのは今のメンバーです。

1993 年 4, 5 歳児保育を立ち上げるにあたり子どもに必要な体験は何かを保護者と共に議論しました。基本的に置いたのは目の前の職場の若者の姿を出し合うことでした。20, 30 年間の教育の成果が表れていると考えたからです。不足していると思われる体験を掴み保育の 3 本柱ができあがりました。現在、学校教育、地域住環境、人間関係も 30 年前とは大きく様変わりしていると感じます。何がどう変わっているのか自分たちの育ちを振り返りながら議論して子どもの体験に反映させてください。

人が育つ条件を大人はしっかりと押さえる。学力で人格は作れないのです。個性は数値で表せません。

保育園生活を大人の指示に従い、指示以外の行動は許さないを徹底するのか、自分の頭で悩み、考え葛藤する時間を保障し判断力を養うのがベストなのか大いに議論してください。

保育園での大人の関係は対等です。

保護者同士、職員同士、保護者と職員対等なのです。年齢差、役職なしです。こんな世界は地域にもどこの職場にも少ないむしろ無いと思います。珍しく新しい世界だと思います。対等、平等な関係だから気付いた人が発言して問題を表面化させて何が問題でその解決はどんな方法があるのかをみんなで知恵を絞ってください。最近この議論が皆無になっていると感じます。保育園への保護者からのクレームは言い放し、責任追及のみのケースが多くなっていますか？きっとこの人の職場はこんな責任追及型、個人攻撃の方法でやっているのでこの方法しか知らないのだと感じてしまいます。

「こねて・ぶつけて・通い合うこころ」この言葉を私は大好きです。アトムを取材した方が子どもたちのやりとりを見て表現してくれた言葉です。

多くの大人はこれができるでないのでは？不満、違和感、要望を感じたときこれは自分の問題か相手の問題かそれとも愚痴を言いたいだけか、他での不満を保育園にぶつけたいのか自分の頭でこねて考える、やっぱり考えて欲しいことだと思ったら伝える、ぶつける。そして相手の考え方を聞きお互いに納得するまで話し合いすれば解決につながると思います。これは双方にとって意義のあることです。反対にこねない！ぶつけるだけ！通い合うまでの話し合いをしない！人が多ければ双方に無意味なことで終わり、子どもを健全に育てる仲間としての信頼関係は作れないと思います。

親の思いどおりにいかない子育てのしんどさを分かち合う仲間

子育ての大変さはマニュアルを参考にしてもアドバイスどおりにしてもわが子には通じないことがあるということです。親の思いどおりにいかないわが子だから辛くてしんどいのです。このしんどさを作り出しているのは子どもの問題は親に責任があるという風潮だと私は考えます。遺伝子は親から受け継ぎ隣のおじさんおばさんからは継承しません。これはハッキリしています。人格形成は 50 パーセントの遺伝子と 50 パーセントは周囲の人的も含めた環境が作り出すのではと長年子どもを見て感じていました。先日テレビで同じことが研究結果で分かったと聞きやっぱり！と納得できました。

子育て楽しくできる人は少ないと思います。多くの人が頭沸騰させながら怒鳴り、泣き、寝顔みて反省の日々だと思います。その痛みを共感できるのが親同士です。そして昼間の親の職員です。

親同士支え合い励まし合って一番しんどい保育園時代を乗り切ってください。

（伝えたいことは書ききれません。思いつくままに書きました。皆さんありがとうございました。）